

新規就農者の紹介



▲(左から)半澤氏、山崎氏、角張氏

令和3年1月から東松島市で営農を開始した角張智一氏と半澤颯人氏、また、お二人にねぎ栽培を教える山崎恵章氏を紹介します。

角張氏 天候に左右されること、雑草や病害虫の防除は大変ですが、山崎氏が近くにいるので心強いです。

半澤氏 幼い頃から地域のねぎを見て育ちました。いつか、自分の努力で収益を上げられるねぎで頑張ろうと思っていました。

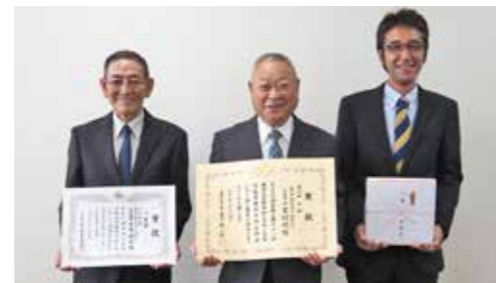
山崎氏 地域全体で、二人を支援しています。二人で失敗も成功も分かち合い、頑張っており、担い手として期待しています。

普及センターでは年2回新規就農者戦略会議を開き、関係機関と情報を共有化し、新規就農者を支援しています。

令和3年度宮城県農林産物・花き品評会の受賞結果

10月23日(土)から24日(日)に宮城県農林産物品評会・花き品評会がせんだい農業園芸センターで開催されました。県内各地から391点の出品があり、当管内からは45点出品され、8点が入賞しました。受賞者の皆様、おめでとうございます。また、出品者の皆様御協力ありがとうございます。

なお、水稻(うるち玄米)部門において、農林水産大臣賞を受賞した「農事組合法人みのり」のササニシキは、令和4年の新嘗祭へ献穀することになります。



▲農事組合法人みのり(右から社員 山下 徹朗氏、代表理事 千葉 昭悦氏、理事 岡 栄裕氏)

作物名	品種等	順位	受賞者氏名	知事賞等
水 稻	ササニシキ	1席	農事組合法人みのり	1等(農林水産大臣賞)
水 稻	だて正夢	3席	農事組合法人みのり	2等(宮城県農業協同組合中央会長賞)
水 稻	ひとめぼれ	5席	株式会社クリーンライス	
こねぎ	ダークスリム	5席	成澤 透	
花 き	ガーベラ	銀賞	成澤 深	
花 き	ガーベラ	銀賞	和泉 清明	
花 き	ガーベラ	銀賞	酒井 寛治	
花 き	輪ぎく	銀賞	佐々木 直樹	



▲農林水産大臣賞を受賞した「ササニシキ」

ウイルスの拡散防止にご協力を

鳥インフルエンザや豚熱のウイルス拡散させないために、

- ①野鳥や野生のイノシシに近づかない。
 - ②糞を踏まないよう注意する。
 - ③山林に入るときは靴についた土を山林内で落とす。
 - ④家畜がいる施設に近寄らない。
- 必要に応じて消毒を行って十分注意しましょう。

発行日 令和4年2月

発行 石巻農業改良普及センター

(宮城県東部地方振興事務所農業振興部)

〒986-0850 宮城県石巻市あゆみ野5丁目7番地

電話 0225(95)7612・FAX 0225(95)2999

この冊子は550部作成し、1部あたりの単価は約98円です。

いしのまき普及センター通信



特集

スマート農業技術は日々進化



有人と無人トラクターによる協調耕起作業

有限会社アグリードなるせ(東松島市)は、令和元年度から2年度にかけて、宮城県や農業機械関連企業等とともに農林水産省の「スマート農業実証プロジェクト」に取り組み、スマート農業技術により省力化や軽労化が図られることを実証しました。

令和3年度は全球測位衛星システム(GNSS)搭載農機を導入し、令和3年10月22日に無人トラクターと有人トラクターによる隣接する2ほ場の協調耕起作業を行い、古川農業試験場とともに作業の効率化について検討しました。スマート農業技術は、農業機械の進化だけでなく、その利用方法も進化しています。

アグリテックアドバイザー派遣事業の活用



▲ アグリテックアドバイザーによる研修

県では、アグリテック(スマート農業技術)を導入する経営体や導入を検討する法人に対し、専門家を派遣する事業を行っています。

12月21日、農事組合法人奥松島グリーンファームと株式会社高橋農産は、株式会社アグリ東北(栗原市)常務取締役の鈴木健也氏をアドバイザーとして、経営・生産管理システム(KSAS)について、活用方法を学びました。このシステムは、パソコンやスマートフォンなどで作業計画や実績を記録し、作業の可視化や従業員間の情報共有が図れ、農業機械と連携することで収量や品質の向上・安定化や経営改善に役立つスマート農業技術です。

石巻地域の農業法人は、水稻、麦、大豆等の規模拡大や輪作により、ほ場の筆数が増え、作付体系も複雑化しており、両法人はデータを生かしたほ場管理システムの必要性を認識しました。

施設園芸の環境モニタリングシステムの活用

石巻地域では、トマト、いちご、パプリカなど大型施設での養液栽培が盛んです。生産者はハウス内の環境測定装置による温度、湿度、日射量、二酸化炭素濃度などの環境データをモニタリングし、効率的に収量、品質を向上させる環境制御技術の向上に熱心です。

普及センターでは、補助事業等を活用した環境測定装置の導入が進んでいることから、環境データおよび生育調査データ(草丈、茎径など)を一週間ごとにまとめたウィークリーレポートの作成支援を行い、環境制御技術を習得出来るよう、伴走型支援を行っています。



▲ ハウス内環境データの解析の様子

稲発酵粗飼料の展示栽培



▲ 展示栽培ほどの調査風景

石巻地域では、耕畜連携による稲発酵粗飼料(以下、稲WCS)の作付面積が拡大しています。稲WCS用専用品種「リーフスター」は茎葉多収型で、食用品種で栽培したWCSと比べて収量が高く、多肥栽培でも倒伏しにくい特性を持っています。

県では稲WCS用専用品種の普及を推進するために、実証展示ほを設置し、生育状況を把握し、8月3日に現地検討会を開催しました。

収量は3.2t~4t/10aと公益社団法人みやぎ農業振興公社の平均収量2.4t/10aに比べ133%高い収量となりました。普及センターでは、酪農や肉用牛への給飼方法など稲WCSの普及定着に取り組んでいきます。

「農業経営の継承を考える研修会」を開催

石巻地域の農業は102の農業法人(令和3年12月現在)が主な担い手となっています。今後も地域農業を維持し、持続的に発展させて行くためには、経営者の世代交代、経営基盤の継承を円滑に進めていくことが大切です。

これらの背景を踏まえ、事業継承を行う上であらかじめ考えておかなければならないこと、準備しておくべきことなどについて理解を深め、更なる経営発展につなげていくことを目的として、令和3年12月17日に「農業経営の継承を考える研修会」を開催しました。



▲ 研修会の様子

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の山本淳子フードチェーンユニット長を講師に、「農業経営における事業継承の在り方」について、継承を巡る課題や継承のタイプ、今後多くなると予想される第三者継承を行う際に注意すべきポイントなど、実例を交えながらお話をいただきました。

また、東北農政局農業組織育成指導官からは、事業継承に関する税制などの国の優遇措置、支援策について、情報提供をしていただきました。

普及センターでは、今後も地域農業の発展のための研修会を開催していきます。

水稻乾田直播栽培の作業時間のシミュレーションによる導入効果の検証



▲ 水稻乾田直播栽培の播種作業

石巻地域の水稻乾田直播栽培の作付面積は818haに拡大し、水稻作付面積7,090haのうち12%を占めています。

乾田直播栽培に取り組む農業法人の協力により、作業日誌を基に、月と旬ごとの延べ作業時間(実際の作業時間に作業人数を乗じたもの)を集計し、「乾田直播栽培19ha+移植栽培56ha」と、「移植栽培75ha」(延べ作業時間)を比較して、乾田直播栽培の導入効果を検証しました。

春作業の4~5月の2か月間では、「移植栽培75ha」に比べ「乾田直播栽培19ha+移植栽培56ha」の延べ作業時間が84%に短縮されています。秋作業の刈り取り・乾燥・調製作業では、9月は移植、10月は乾田直播に分散され、農作業のピークが平準化されることが明らかになりました。

石巻地域の農産物直売所マップ完成!!

直売所20か所の情報を掲載した農産物直売所マップを作成し、各直売所に設置しました。HPでも御覧いただけます。是非、御活用ください。

